

「飯館の今」村職員が講演

来月4日 ゆかりある横浜・都筑で

東京電力福島第一原発事故で全村避難が続く福島県飯館村の健康福祉課長・藤井一彦さん(50)が8月4日、講演会「飯館村

の今」を横浜市都筑区往田東のかげはし都筑で開く。藤井さんは横浜市職員から飯館村へ「転職」。

あり、主催するボランティア団体「つづき楽校」は「都筑ゆかりの行政マンが被災地で奮闘していることを知ってほしい」と

している。

藤井さんは約20年、市



「被災地への関心を途絶えさせないようにしたい」と話す岡子さん(左)ら

職員を務め、都筑区役所では社会教育主事として生涯学習を担当。市民目線の熱心な職員として評判だった。

だが、「日本で最も美しい村」と言われ、自主自立を目指す飯館村に憧れ、2003年に同村に移住、活性化に尽力してきた。原発事故後は放射線について学

びながら村の復興計画の原案作りに関わる。講演会についで藤井さんは「美しい村が原発事故からどう再生しようとしているのか聞いてもらい、みんなで考えてほしい」という。

つづき楽校は、区民活動支援講座の受講者で、30〜70歳代の男女約10人が11年4月に結成。当初は住民交流イベントをしていた。だが、代表の主婦岡子俊子さん(67)は阪神大震災で神戸市の実家が全壊し

た経験もあり、同年9月にボランティアで岩手県釜石市を訪問。惨状を目の当たりにして「自分たちができることを継続的にやらなければ」と決心。活動の中心を被災地支援に切り替えた。

市営地下鉄センター北駅前などで復興イベントを開いたほか、岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市、福島県浪江町、福島市、天栄村などの自治体職員、幼稚園園長らを招き、「被災地の今」を語ってもらった。

関係者を招く費用はカ

ンパで賄った。企業や商店などに飛び込みで協力を求めてきたが、門前払いは一度もなかったという。「被災地に協力したい」と思っている人は多い。きっかけさえあれば支援の輪はまだまだ広がる」と岡子さん。

講演会は午後1時半〜4時。後半は藤井さんとの交流会を予定。参加費500円。経費を引いた金額を村への義援金として藤井さんに託す。問い合わせは岡子さん(090・6116・3326)。